

ガムラン・アンサンブル「マルガ・サリ」+三輪眞弘  
コンサート+ワークショップ  
「4ビットガムラン『愛の讃歌』をめぐる」

日本音楽学会第60回大会関連企画

日時：2009年10月25日（日）12:10開演

会場：大阪大学：21世紀懐徳堂（旧イ号館）1F 多目的スタジオ

参加：無料

主催：大阪大学GCOE「コンフリクトの人文国際研究教育拠点」プログラム

（「音楽の生産・流通・消費をめぐるコンフリクト」）

日本音楽学会第60回大会実行委員会

三輪眞弘氏は、「架空の民俗儀礼」とも言える「またりさま」、あるいはコンピュータを通してフレディ・マーキュリーの声に革命歌「インターナショナル」を歌わせた「フレディーの墓／インターナショナル」（Prix Ars Electronica 2009 の Honorary Mention (Digital Musics 部門)受賞！)などの活動を通じて、今日本で我々を最もドキドキさせる現代音楽作家だと言えます。

その彼が、ガムランのための作品を書きました。しかも、阪大とも関係の深いアンサンブル「マルガサリ」のために。この作品は、すでに数度の上演を重ねていますが、今回ついに阪大で上演されます。現代音楽といってイメージされるような音楽ではなく、かといってガムラン本来のジャワの古典曲とも違い、でもどこかその古典曲の本質を映しているようでもあり、でもなんだか不思議にレイドバックしているようでもあり、なかなかどうしてかなり妖しい魅力をたたえてもいるこの作品を、是非お聞き下さい。

ワークショップは、三輪さん本人のレクチャーと、そして聴衆の演奏チャレンジ「4ビット・ガムランをやってみよう！」というもの。GCOEの研究グループ「音楽の生産・流通・消費をめぐるコンフリクト」では、音楽を専門としない学生や職業人が、どのように音楽実践に参入するか、という問題を考えてきました。今回のコンサート+ワークショップはそのような試みの一環でもあります。臆せず、奮って、ご参加ください。

### マルガ・サリ

ジャワの古典音楽とともに、先鋭的な現代作品にも取り組むガムラン合奏団。1998年に大阪を拠点として創設。野村誠、三輪眞弘、ヴィンセント・マクダモット（米）、デヴィッド・コットロウイ（オーストラリア）、アスモロ（インドネシア）、スポウォ（同）らがマルガサリに新作を寄せる。障害のある人々との共同作品『さあ、トーマス！』を大阪、東京など日本各地で上演。野村誠との共同制作『桃太郎』が2008年にインドネシアで公演され、好評を博す。これまで海外から2回招聘される。

メンバーは15名、代表は中川真。音楽顧問はシスワディ、野村誠。

### 三輪眞弘

1958年東京生まれ。1974都立国立高校入学以来友人と結成したロックバンドを軸に音楽活動を始め78年渡独。国立ベルリン芸術大学で作曲をイサン・ユンに、85年から国立ロベルト・シューマン音楽大学でギンター・ベッカーに師事。85年ハムバッハー国際作曲コンクール（ドイツ）佳作、89年第10回入野賞第1位、91年「今日の音楽・作曲賞」第2位、92年第14回ルイジ・ルツソロ国際音楽コンクール（イタリア）第1位、95年村松賞新人賞、2004年芥川作曲賞などを受賞。著書『コンピュータ・エイジの音楽理論』、オペラ『新しい時代』、インスタレーション作品「またりさま人形」、作品集CD『赤ずきんちゃん伴奏器』、『東の唄』、『昇天する世紀末音楽』シリーズ、『新しい時代信徒歌曲集』、『言葉の影、またはアレレヤ』などを発表している。2007年、アルス・エレクトロニカのデジタルミュージック部門にてゴールデン・ニカ賞(グランプリ)を受賞。

URL:<http://www.iamas.ac.jp/~mmiwa/>

### 問い合わせ先

大阪大学大学院文学研究科  
音楽学研究室（伊東信宏研究室）

〒560-8532

豊中市待兼山町1-5

Fax 06-6850-5121

